

第8章 事業手法

橘小学校等複合施設の整備及び運営に関する事業（以下「本事業」という。）の事業手法については、公共施設の設計・建設・管理運営に民間の資金や経営ノウハウを活用した民間活力の導入を計画しています。

本章では、本事業への民間活力導入の目的と効果、想定される事業手法とその適性について示します。

1 民間活力導入の目的

民間活力を導入すると、公共施設等の設計、建設、維持管理、運営等について民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行うことで、市が直接実施するよりも効率的かつ質の高いサービスを提供できるほか、事業コストの削減も期待できるとされています。

民間活力を活用した手法は全国的には学校施設にも導入されており、現在の生涯学習センター、福祉会館及び児童館には、民間活力導入の一手法である指定管理者制度を採用しています。

2 代表的な事業手法

公共施設の設計（D=Design）、建設（B=Build）、資金調達（F=Finance）、管理運営（O=Operate）について、市と民間事業者の役割分担によって、様々な手法があり、以下に代表的な手法をまとめました。

代表的な事業手法における市と民間事業者の役割分担

事業手法	設計 Design	建設 Build	資金調達 Finance	管理運営 Operate
従来方式	市	市	市	市
指定管理者制度	市	市	市	民間
DB+0方式	民間①※1	民間①※1	市	民間②※1
DBO方式	民間	民間	市	民間
BT0（PFI）方式※2	民間	民間	民間	民間

※1 DB+0は、設計・建設事業者と管理運営事業者が別の事業者となります。

※2 PFIはプライベート・ファイナンス・イニシアチブ（Private Finance Initiative）の略で、公共施設等の建設、管理運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用する手法のこと

3 本事業における事業手法の評価

(1) 定性評価

民間事業者へのサウンディングを行い、本事業への参入意欲等を確認するとともに、各事業手法の成立性や妥当性などの適性を定性的に評価しました。なお、市民利用施設には指定管理者制度が導入されていることから、下表の従来方式は設計及び建設を市が実施し（分離発注）、施設の運営・管理には指定管理者制度を導入する手法を想定しています。

下表に示すとおり、事業スケジュールが最も短縮でき、各評価項目において大きな課題がなくバランスが取れたDB+0方式が最も優位であるという結果となりました。

(2) 定量評価（VFMの算定）

本事業における市の収支を比較したところ、下表のと通りの財政負担削減効果（VFM）の試算となり、DB+0方式が最も効果が期待できるという結果となりました。

(3) 総合評価

定性評価においては、DB+0方式に最も優位性があり、また、定量評価（VFM）においても、DB+0方式が市の財政負担に対する効果が最も期待できることから、総合評価においても、DB+0方式が最も高い評価となりました。そのため、本事業の事業手法にはDB+0方式を採用します。

各事業手法の評価

区 分		従来方式	DB+0方式	DBO方式	BT0(PFI)方式
定性評価	職員等の事務負担の軽減	▲	○	◎	◎
	効率的な業務遂行	▲	○	○	○
	整備スケジュール	▲	◎	▲	▲
	市民サービス向上、にぎわいの創出・地域拠点の形成	○	○	○	○
	官民のリスク分担、民間事業者間のリスク分担	▲	○	○	◎
	民間事業者の参入意欲	▲	○	◎	○
	運営事業者の裁量	○	○	○	▲
定量評価（VFM）		—	▲2.65%	▲1.81%	0.70%
総合評価		▲	◎	○	○